

「風と共に去りぬ」講演の補足資料

「わが英語は電話応答器に拒否された！」

アメリカの一人旅。英語にはある程度自信があるつもり自分だったが、ホテルで航空会社にかけた電話のやりとりでは完全にその自信を喪失してしまった。電話の向こうで応答する器械に「あなたの英語がわからない、よく聞き取れない」と言われたのである。

アトランタからニューオーリンズ行きのフライトは、こちらに着いてから購入の予定でいた。主要都市間の便である。すぐにでも取れると思ったからだった。

日本との往復便と同じコンチネンタル航空に電話すると、一度ハブ空港であるヒューストンに行き、そこから戻ることになるという。東京から一度、大阪に行って名古屋に戻るようなものである。そんな無駄なことはできまい。そこで、アトランタがハブ空港のデルタ航空に電話した。電話の受付が殺到する日本の企業もそうだが、最初の3段階まではダイヤルの番号を押すことによって器械が応答するようになっていた。

「出発はどこからですか？」と器械が聞く。私は「アトランタ」と応答。「目的地はどこですか？」と聞かれると「ニューオーリンズ」と返事をした。

ところが……。なんと、どちらの場合も器械の応答は「聞き取れませんでした」。何回も、できるだけはっきりした発音を心がけ、繰り返してもダメである。そのうちに器械の方も工夫を加えてきた。「ジョージア州のアトランタのことですか？」「ルイジアナ州のニューオーリンズのことですか？」。私は、ここぞとばかり「イエス、イエス、そのとおりです」と大声で返事をした。そしてここから先は人間の対応者が出て、具体的なフライト時間や料金の払込手続きへと話が進んだ。

ニューオーリンズに着くと、私はこちらに住んで長いという日本人のNさんにこの経過を話してみた。するとNさん曰く。

「そう、相手が人間であればなんとか聞き取ろうとしてくれる。でも、器械はそれができないから短絡的に“NO”の反応が出てしまうのです」「それに日本人はどうしても『R』と『L』の発音の区別ができない。ATLANTAの『L』、NEWORLEANSの『R』と『L』ですね。自分もアメリカに来たばかりに『私はご飯が好きです』というのに、発音が『ご飯<米>(ライス)』のRICEでなく『しらみ』のLICEになっていて、『オイ、Nはしらみが好きなんだってヨ。みんな近寄らないほうがいいぜ！』ってからかわれたこともあったんですよ」

いつになっても「英語の発音恐るべし」である。